

環境月間特別企画「環境でトーク」

海洋環境と環境保全



答志町の大築海島（おおづくみじま）です。この海域に鳥羽磯部漁協答志支所青壮年部のダイバーが潜り、藻場を造成しています。今回は、この大築海にて船上での対談となりました。

6月の環境月間にちなみ、今年も「環境でトーク」を実施しました。

今回は、市長と、水産業に携わり環境問題の中でも特に海の環境保全に積極的にかかわって見える橋本さん、水産研究所の斎藤次長にお話をいただきました。



以前は自然の藻場が形成されていた場所を箱メガネを使って見てみます。実際に海の中を見て、藻場造成の状況を確認することで、青壮年部の活動の一片を感じることができました。

中村 鳥羽磯部漁協答志支所の青壮年部の藻場造成活動が評価され、平成21年度に天皇杯を受賞されました。取り組みの経過について教えてください。

橋本 平成5年頃から漁場が「磯焼け」という、アラメや海藻が消えてくという状態になって、僕らが漁協の青壮年部に入った十数年前から藻場造成の活動はやってました。けど、いっつも失敗に終わってました。

今行っている方法でやっと芽が出てきて5年目になります。芽が出てきたと言うてもこんな大きな海に、僕らが放り込む石は100個か200個です。僕らのできることはほんとにしれたことやけど、少しずつでも毎年続けていくことで藻場が広がっていくって、昔のきれいな海に戻ることを夢見ています。

自分のこともらが「答志の海はきれいや」って自慢できる海を作ろうと思ってみんな頑張ってます。

中村 青壮年部と水産研究所の関わりについてお聞かせください。

斎藤 もともと昭和56年に県の要望でアラメの種苗を作ったのがきっかけです。

最初は失敗ばかりで、藻場を造成するけどアラメが魚に食べられてしまうということを繰り返していたところ、平成16年に漁協を通じて答志の海女さんから「磯が荒れてきてアワビの漁獲も少ないので、何とかして回復する方法はないか」という相談を受けて、それ以降どんどん関わりが深くなってきました。

当時は青壮年部にダイバーはいなかったんです。それで、プロのダイバーを雇いましたが、やはり意思疎通というのが難しく問題を解決できなくて、次の年から青壮年部の若手10人程がダイビングの免許を取りました。アラメにネットを被せたら魚に食われずに成長するのは当時すでにわかっていましたから、この方法でいこうということになってからはスムーズでしたね。

漁師やから自分とこの浜は全部知っとるし、ネットをかぶせる作業も早い。これは青壮年部のダイバーがいて初めてできたことだと思います。

それでこういったことを研究発表したところ、水産部門でめでたく天皇杯をもらったわけです。今この活動を継続してくれていることが僕には嬉しい。



はしもと まさゆき
橋本 政幸さん（鳥羽磯部漁業協
同組合 答志支所青壮年部代表）

本業の漁業をこなすかたわら、藻場造成を中心に活動している答志支所青壮年部の代表も努める。答志支所青壮年部は、平成21年度に天皇杯を受賞。

今までやってきたことを継続し 美しい海を取り戻したい

砂浜のところに、10m幅の石積みが行われてました。伊勢湾の砂はいろんなものを浄化してくれる役目があり、それが栄養豊富な伊勢湾を作ってるわけなんです。国はなぜこんなところまで砂浜

を埋めてしまうのか、がっかりしましたね。

このへんでもそうだけど、なるべく自然な形での海を残して欲しい。海があつてこそ

の日本やと思うし、人間が生きていくためには、山や海が必要なものだとみんなが認識

することが必要で、これ以上自然を破壊せず、大切にしたい

だけだと思います。生き物のためだけに、人間自身を守るためにも環境を守つていく

必要があると思

う。

便利にするのもいいけども、

ほどにして欲しい

というのが本音です。

市長 いろいろ考

え方があると思う

んですけども、危

機的な自然の状況

が出てきた原因の一つは、人間が市場経済に従ってやってるなかで、例えば林業をとってみようと、人工林でも自然林でも儲からないから放置するというのが今の悪い状況を作り出していると思います。それが、肥沃な水を、栄養豊かな水を海へ流すことの弊害になっています。

それから、人間が自然のものだけに頼らずに、科学的なもの

のいろいろ作り出していますが、

今まで自然になかったものができて自然に悪影響

を与えているとも感じています。

気をつけないと、人間が自分で自分の首を絞めること

になると思います。

それと先ほど、自然に害がない事業を行わなければいけない

と齋藤さんが言いました

が、まったく同感で、今まで埋め立てやダム建設などで

自然に悪影響を与えてきたと思います。例えば大きなダムができて海苔の色落ちが起こったと思いますけど、ダムで貯めた水が必要な分だけ通して、それ以外は治水のダムとして存在させるのであれば、空ダムでいいと思います。普段は空ダムで、水害のときだけせき止めるというようにすれば、ダムがないのと同じ状態になりますので、国も柔軟な対策を練って、自然を破壊しないようにやっていくべきだと思います。

護岸についても、堤防で国

を守るといふことと同時に砂

浜で国を守るといふこともでき

ると思いますので、何が必

要なのかを十分に考えていく

必要があると思います。

橋本 僕は素人なんで原因は

わかりませんが、今の港が

できている場所もこどものこ

中村 市長から、全国でも評価の高い天皇杯を受賞した感想と、これから水産業を良くしていくために考えていることを聞かせてください。

市長 今回、地元の青年たちが藻場造成に携わって天皇杯を頂いたことは本当に素晴らしいことで、大変な快挙だと思います。これは市民みんなが喜んでいいことではないでしょうか。これからは地道な活動を続けていって欲しいなと思います。

く上で、大きな視点と個々の活動の両方の視点が大事なんじゃないかと思えます。

中村 海洋環境は大変な状況にあると言われますが、みなさんは、海の状態がどのようになっていると思われませんか。それぞれの立場で思いを聞かせてください。

齋藤 海というのは最終処分場だと思っんですよ。言い方が悪いかもしれませんが、陸からのあらゆるものが流れてくる訳ですから。鳥羽というのは太平洋側からの水と伊勢湾側からの栄養豊富な水が流れてくる最も良い場所に位置する漁場なんです。答志のように若い漁業者が残っているというのは、漁場があつてこそだと思っんですよ。

最近、明和から松阪のあたりの海岸をのぞきましたら、護岸工事やつてたんですけど、

砂浜のところに、10m幅の石積みが行われてました。伊勢湾の砂はいろんなものを浄化してくれる役目があり、それが栄養豊富な伊勢湾を作ってるわけなんです。国はなぜこんなところまで砂浜を埋めてしまうのか、がっかりしましたね。

が出てきた原因の一つは、人間が市場経済に従ってやってるなかで、例えば林業をとってみようと、人工林でも自然林でも儲からないから放置するというのが今の悪い状況を作り出していると思います。それが、肥沃な水を、栄養豊かな水を海へ流すことの弊害になっています。

便利にするのはいいけど鳥羽の自然は壊さずに



さいとう よういち
齋藤 洋一（水産研究所次長）

主に黒海苔とワカメの種苗生産を行っている。昨年から三重大、三重県と連携してヒジキの養殖にも取り組んでいる。

便利にするのはいいけど 鳥羽の自然は壊さずに



木田久主一 (鳥羽市長)

漁業者が年々高齢化している状況を憂慮している。これからの漁業のためにも、鳥羽の美しい自然を守るためにも、環境先進都市としてのまちづくりを目指している。

小さな視点と大きな視点 両方を意識することが大切

つまり、小さなことに個々が関わっていくということと、そして大きなことについてはみんな意見を言っている情報発信していくことが大事だと思っています。

橋本 僕は、今やっていることを続けていくことが大事やと思っています。この活動は僕

ろは砂浜やったんで、小さい港ですけど、齋藤さんも言ったように砂浜の浄化作用の影響があるのかなと思います。昔は全然なかったけどイノカイみたいな貝、ムラサキイガイですか、あれがかわびのおるような穴の中にビッシリつまつとるんさ。小さいときはおらんかった。水のなかに入ると20年前とは全然違う。こんな貝おつたかなという貝がいますよ。こんなことも海に潜って初めて分かったことです。

中村 もっとこうしたら海が良くなるとか、アラメの磯焼けを改善していくためにはこうするべきだという考えはありますか？

齋藤 鳥羽の場合は伊勢湾の水が入るので海藻が豊富で、鳥羽全体でも約70種類の海藻が生えている。とにかく鳥羽

はいいところです。ですけども、堤防ができたりして潮の流れが変わるといのが環境に与える影響は大きい。大型藻礁というのがそのうで、2m角のものをポンポン海に入れてますけど、当然、潮の通りは変わってきますよね。個人的には嫌なので、できるだけ自然に、環境に負担を掛けない方法ということですね。自然石工法を考えてみたんです。「そういう石は動いてひっくり返るやろう」という人もいるけど、ちゃんとひっくり返らずにいますよ。

昨年造成したのも立派な背丈に育っています。それが秋になると胞子を出して、その周辺の海域にどんどん種をつけてくれるといいなと考えています。

市長 最初にも言いましたが個々の活動は大事だと思いましたが、例えば合成洗剤を使わずに石鹸を使うとか、小さなことで考えていけないといは確かに汚れが落ちやすいですが、わたしの家では合成洗剤は使っていないですよ。洗濯も全部石鹸でやっています。一人がやっても微力ですが、みんながやったら変わるんです。

それと今、中国がものすごく成長して、日本に光化学スモッグが来るようになりまして、海も同じだと思っております。すぐにどうこうできない問題かもしれないですけど、環境に対する考え方を発信することが大事。中国の人だけでなく世界中の人に発信することが大事だと思えます。



「鳥羽は豊かな自然環境があってこそ」
進行役を務める中村環境課長

らが手本になって、どんどん後輩に伝えていければと思つてます。いまやっと活動の成果が芽になってきてきたから、それを止めやんように、自分らがバネになって盛り上げて頑張っていくことが重要やと思います。

中村 他の漁協にも広がっていますよね？

齋藤 南伊勢町でも4地区、菅島地区でも同じようなことやっているんです。菅島の場合は海女さんに潜ってもらって、自然石をちゃんと置き並べてもらっている。

橋本 橋本さんたちの影響であつて、天皇杯受賞の影響でもありますね。

橋本 でもね、天皇杯だろうと思つてやった訳やないんさ。答志の漁場のことを思う気持ちというか、漁場を守る

ことしか考えてなかつたんですよ。

市長 天皇杯をとつたことによつてみんなの関心が高まつて、他でもやろうということが起こつているので良かったと思います。

橋本 僕ら漁師だけが海を気にしてもしょうがないんさ。一人ひとりの海に対する思いとか、きれいだなとか、汚いなと思うだけでもいい。一人ひとりがちよつとしたことでもいいから海を意識することが大事やと思います。

